

---

# 主従関係考察

陸一 潤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

主従関係考察

### 【コード】

N9515G

### 【作者名】

陸一潤

### 【あらすじ】

男女の友情があってもいいんじゃない？チビと苦労人保護者の凸凹コンビでお送りします。学生競作参加作品。

**(前書き)**

学生競作参加作品です。

「おいで」というのなら、お前が来いと心底思う。  
もしくは頭を地べたにこすりつけ、「来て下さい」と頼むかそれか、  
小躍りさせるほどのそれなりのモノを、「お願いします」の一言つ  
きで、こちらへ献上なされるか。  
さて、戯言はここまでとして。  
ここまででは相手が赤の他人だったならばの御話である。

堤防の上、相棒はまるで青春モノのドラマか漫画かのように、声高  
に夕日に向かって叫んだ。

「行けるわけねーだろオがよー、ばかやろー」

何がバカヤローなのか。

堤防の下、川原で石投げをして遊んでいた親子が驚いてこちらを見  
ている。謝罪の変わりにオレの胸ほどにしかない頭を軽く叩いて帰  
りを促した。

「オラ、行くぞ」

「・・・婦女暴行罪で訴えるぜ」

「婦はフでもお前のは腐った方の腐だろう」

「あー脳細胞が死んだ。死滅した」

「とつくに腐り落ちてんだよ」

「腐ってんのはあっちだつてよ」

人差し指をピンと立て、俺の後ろを腕を伸ばしてまっすぐに差す。

「蛆虫わいた生首が爛れた右手を手招きながら泣いてるんだモノ」  
右手を頬に当てて切なげに目を伏せ、泳がせて見せた。

「あつ消えた！あたかも螢の光かのようくツ！」とりあえず実況中継はしなくていい。

さて。

『見える』こいつは本当に見えるだけらしい。しかし本人が少し構えて少し頑張れば、触れられることもあるそうだ。確立は五分五分。

ひとりじゃなければ、見えるだけで害無く利も無く。誰かといることではそれは防げる。

「夜とかね、ビクツとなるぜ」

そりゃなるだろうさ。

「アンタが見えないってのも不思議だつーのよ」

「見えるわけないだろう」元来、見えるものではないはずだ。現にオレ自身本物は見たことがない。

しかしこんな話をしているからか、薄暗い帳の落ちかけた帰り道がやたらと気味悪く見える。知人が住んでいるマンション、変わり映えのしないアスファルトの地面、その隙間から生えた揺れる雑草さえにも背筋が寒くなる。

が、

「手、つながない？」唐突な申し出だ。

「何オマエ」

さすがにオレも、そこまで恥は棄てない。というか棄てきれない。物凄く顔を歪めてしまったオレの顔を見て、「仕方ねえ、こっちで我慢してやるよ」と袖のすそをつまんだ。「何オマエ」

「何だよ悪いかこのやるー」

いや悪くはないが。

「……誰かに見られたら変に見られないか？」

「ぶぶー出ましたーっ！ツンデレツンデレー！」

いやいやそうではないのだけれど。

ていうか一気に元気になったなお前。

「おいこら相棒、着替えるなら部屋に行け。居間で脱ぐな」

「おれの裸見て興奮すんならロリコンの兆しだけ相棒。っーかおめー、どうせ部屋着いてくるだろうが。ん？見たいんか？」

それは絶対はない。

「微笑ましくはなる」

「お花愛でる感覚か。このロリコン」

「いや、小動物を愛でる感覚だ！」

「おれは何だ！ハムスターか！！」

「いや……」

そういえば改めてコイツを見る。

一般日本人の茶色い目と黒髪。大きい黒眼でじつところちらを見る。

年齢にしてありえない145センチ以下幼児体系。椅子に座れば足を揺らし、何故か大きくならない見た目は子供、中身は変な方に大人、そんな感じ。

「豆柴　　つて、あつたよなー」

「豆助か」

店先で座って和菓子を待っている感じがそっくりだと思つ。

「いいじゃないの。よしおれの著者近影は豆柴のイラストでいいよ」  
お気に召したようで。

もし、

それがもし、おれが重い腰をあげるだけの価値のある存在だったとして、その場合は立ち上がるまではしてやるものの、この両足を動かしてお前と同じところまでいってやるのは大変億劫な事この上ないので。

その場合、時間経過を忘れて待つのは得意なこの俺様が、おれの頭を撫でてくれるまで、ぼーとしながら待ってやるうと思つのですが

触れない頭に手を置いた。

「ならお前はおれの後ろを歩く飼い主で」

「それは逆だ」

「飼い犬に下克上された飼い主設定でいいじゃないの、守護霊さん」

「年上だろ」

「死人に年なんざ無エだろつよ」

「死んだら皆仏様だろ」

「一休さんは死んだら皆骨だつて言つてたよ」

みまじりじりじりかぬ 相棒よ。

(後書き)

チビはオタクです。

豆助はby和風総本家。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9515g/>

---

主従関係考察

2010年10月15日16時39分発行